

# Camp

## Data Book 2004



キャンプが  
わかる!



# 楽しいだけじゃ 終わらない!

キャンプは楽しいものです。  
楽しいからこそ、多くの成果が期待できます。  
私たちに多様な学びの機会を提供してくれます。

## 自然そのものが もたらしてくれる学び

自然の中には、人間の五感に働きかける不思議な刺激が満ちています。これらの刺激は、人間の五感に直接働きかけ、私たちに感動や驚きを与え、知的好奇心や探究心を喚起させてくれます。そして、直接実物を見たり聞いたり、触れる体験は、知識を本当の意味での知識として定着させることに役立ちます。

## 集団による活動・共同生活が もたらしてくれる学び

キャンプでの小グループでの生活や活動は、自主的・主体的な行動や態度、協調性・社会的な態度や行動が求められます。キャンプは、他者との深い交流の中でより良い人間関係のあり方を学ぶ機会を提供してくれます。

## 自然の中での生活や活動が もたらしてくれる学び

自然に対する理解は、日常生活における環境保全や自然愛護への積極的な態度を培います。また、自然の中での素朴な生活や活動は、向上心や創造力を育むことにつながり、キャンプで得た知識や技術は、危険を回避し安全を確保する能力、自らの安全は自らが守るという意識を高めます。

## 新しい体験が もたらしてくれる学び

キャンプでの普段味わうことのできない新鮮な活動は、これまで気が付かなかった自己の長所や能力を発見し、短所を知る機会となります。そして、自然を活用した楽しく新鮮な活動は、生涯にわたって余暇活動を行うための新たな興味・関心を喚起し、健全で豊かなライフスタイルの形成にも役立ちます。

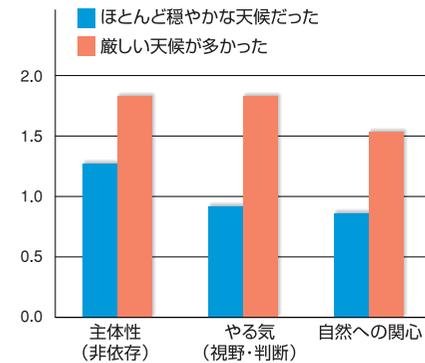
(平野吉直)

# キャンプ なるほど データ

キャンプは、自然環境、活動内容、指導者、仲間などのさまざまな影響を受けて、心身の成長や健康にとってもよい効果があることがわかってきました。そこで、いくつかの研究からわかってきた「なるほど」の発見について紹介します。(岡村泰斗)

## ピンチが多いほどたくましい子が育つ!?

全国54の長期キャンプと、それに参加した1279名のキャンパーを対象に「生きる力」を調査しました。その結果、宿舎泊よりもテント泊の方が、給食よりも自炊の方が、よい天気よりも厳しい天気の方が、行動力や適応力、さらには自然への関心が高まるといった結果が得られました。このことから、計画された原生活体験や、または予期せぬ悪天候など、日常よりも困難で、厳しい状況の方が生きる力が高まるといえましょう。ただし、キャンパーが、その困難や問題を、いかに積極的に克服できるように支援するかが重要です。良いキャンプを行うにはそのような支援のできるよい指導者も必要なのです。

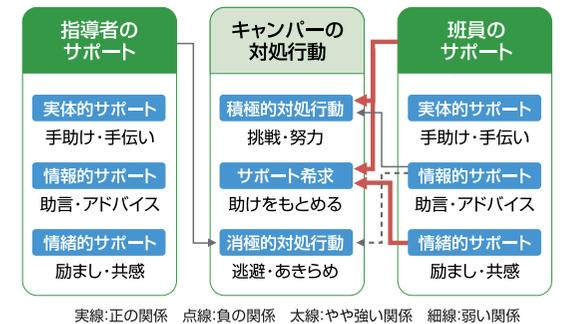


得点はキャンプ前とキャンプ後の生きる力に影響を及ぼすいろいろな能力の高さの差を表したものです。キャンプで生きる力が向上することも分かりましたが、「厳しい天候が多かった」キャンプほどより高まることが明らかとなりました。

出典：長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響、野外教育研究6-2 橋直隆(筑波大学教授)調査

## 「見守る」ことも教育です

キャンプはいろいろな困難や問題を、キャンパーが協力して解決していくことで心身の成長につながります。ところが、キャンプ中に指導者からのサポートが足りないと自分から積極的に困難に向き合おうとしなくなるという結果が出ています。逆に同じグループの友だちからのサポートがあるときは、「よし、やってみよう」という気持ちになるようです。更に細かくキャンプの場面ごとに分析すると、例えば、班員との友人関係の問題などでは、指導者が適切に支援してあげる必要があることもわかりました。つまり、キャンプではいつでも実際に手助けをしてあげるだけでなく、時には「見守る」というサポートもキャンパーの成長のために必要なのです。



この図は、キャンパーがキャンプ中の様々な問題をいかに解決しようとしているのかと、班員や班付きの指導者からどのようなサポートを得ているかの関係を示したものです。これは、キャンプ全体を通して見たものですが、キャンプでは、活動内容、生活場面、友人関係などの問題の違いにより、効果的なサポートも異なっています。よい指導者は、それぞれの場面ごとに最適なサポートの方法を選択する必要があります。

出典：キャンプのストレス場面におけるソーシャルサポートが参加者の対処行動に及ぼす影響、奈良教育大学修士論文 中川もも(奈良教育大学大学院)調査

## キャンプの効果

- 生活体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実
- 自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実
- 感性や知的好奇心を育むことができる
- 自然の理解を深めることができる
- 創造性や向上心、物を大切にすることを育てることができる
- 生きぬくための力を育てることができる
- 自主性や協調性、社会性を育てることができる
- 直接体感から学ぶことができる
- 自己を発見し、余暇活動の楽しみ方を学ぶことができる
- 心身をリフレッシュし、健康・体力を維持増進することができる

※出典「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」文部省1998年

※出典「青少年の野外教育の充実について」文部省1996年

# 数字で見るキャンプ

## キャンプ場数

オートキャンプ場 **3,314**  
 行政関係施設 **1,843**  
**合計 5,163カ所**

社会教育調査(2002年調べ)、  
 オートキャンプ白書(日本オートキャンプ協会)の  
 数字を合算したもの

## キャンプ人口

**660万人 + α**

オートキャンプ人口(660万人)に、学校や  
 社会教育団体で行われている自然体験の  
 参加者を加えたものがキャンプ人口と  
 とらえます。  
 (まだ正確な数字を得ていません)

### 言葉の解説

#### 「組織キャンプ」

家族や仲間で行う「レジャーキャンプ」に対して、この言葉があります。  
 教育的な目的で行われるキャンプをこう呼びます。日本では、ボーイスカウトやYMCAなどの社会教育団体が行ってきた歴史がありますが、この10年ほどでキャンプ専門の会社やNPOなどが実施することに加え2002年の学校週5日制の導入以降は、スポーツクラブや学習塾もキャンプを取り入れているところが増えてきました。  
 「ただ、キャンプするだけ」のイベント型キャンプも一部見受けられるのも少し残念なところでは。

## ライフステージ別余暇活動潜在需要(参加希望率-参加率) 上位20位

潜在需要	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位
全体 (2,450人)	海外旅行 36.9	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 21.8	ピクニック、 ハイキング、 野外散歩 9.6	陶芸 8.9	音楽会、 コンサート 8.8	オート キャンプ 8.6	観劇 (テレビは 除く) 8.2	スキー 8.0	料理 (日常的な ものを除く) 7.6
ハイ ティーン (147人)	海外旅行 49.0	スノーボード 22.4	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 21.8	海水浴 18.4	スキー 17.7	ドライブ 15.0	オート キャンプ 15.0	スキューバ ダイビング 13.6	パチンコ 12.9
フリーター (40人)	海外旅行 50.0	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 32.5	スキー 17.5	水泳 (プールでの) 17.5	音楽会、 コンサート 15.0	エアロビクス、 ジャズダンス 15.0	オート キャンプ 12.5	観劇 (テレビは 除く) 12.5	料理 (日常的な ものを除く) 12.5
ワーキング マザー (42人)	海外旅行 54.7	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 28.6	オート キャンプ 26.2	海水浴 26.2	ピクニック、 ハイキング、 野外散歩 23.8	催し物、 博覧会 21.5	遊園地 21.4	テニス 19.0	書道 16.7
チビッコ ファミリー (302人)	海外旅行 51.7	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 30.8	オート キャンプ 22.5	スキー 19.2	海水浴 17.9	音楽会、 コンサート 17.9	スポーツ観戦 (テレビは 除く) 17.5	ピクニック、 ハイキング、 野外散歩 15.6	映画 (テレビは 除く) 13.9
50代男女 (同様の世代) (459人)	海外旅行 34.0	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 20.3	ピクニック、 ハイキング、 野外散歩 13.3	陶芸 11.5	絵を描く、 彫刻する 10.9	水泳 (プールでの) 10.2	音楽会、 コンサート 8.9	観劇 (テレビは 除く) 8.5	料理 (日常的な ものを除く) 7.6
パワー シルバー (99人)	海外旅行 19.2	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 10.1	ピクニック、 ハイキング、 野外散歩 9.1	絵を描く、 彫刻する 9.1	書道 7.1	演芸鑑賞 (テレビを 除く) 6.0	帰省旅行 5.1	水泳 (プールでの) 4.1	観劇 (テレビは 除く) 4.0
高齢者 (195人)	国内観光旅行 (避暑、避寒、 温泉など) 12.8	海外旅行 6.1	催し物、 博覧会 6.1	ピクニック、 ハイキング、 野外散歩 5.1	水泳 (プールでの) 4.1	登山 4.1	絵を描く、 彫刻する 2.6	演芸鑑賞 (テレビを 除く) 2.6	麻雀 2.5

注1：同率で「中央競馬」 注2：同率で「美術鑑賞(テレビは除く)」 注3：同率で「オートキャンプ」

キャンプ場の数やキャンプ人口は残念ながら正確にはわかっていません。数える基準によって数値が大きく変わってくるからです。ここでは最近のデータからピックアップして推測してみることにしましょう。

キャンプ場数は、オートキャンプ場と行政関係社会教育施設のキャンプ場を合計すると5000箇所以上あります。レジデント(宿泊施設)タイプのキャンプ場は、この数字にはカウントされていないと考えられますので、全体ではキャンプ場数はもっと多いと推測されます。わたしたちの身近な場所にもステキなキャンプ場がありそうですね。キャンプ人口は、「レジャー白書」によるとオートキャンプ人口が660万人とされています。これに学校関係の組織的キャンプ参加者なども加えると膨大な数になります。余暇活動潜在需要(ひまなときに、どんな活動をしたいか?)では、オートキャンプが上位に挙げられていることから、キャンプ人口はこれからも増加すると考えられます。(大石示朗)

# 青少年の自然体験活動等に関する実態調査

## ① 子ども調査編

### 1 自然体験活動をたくさんした子どもは、自然体験活動に対して肯定的なイメージ

自然体験活動をたくさん行った群ほど、中学・高校生とも自然体験活動に対して「開放的な」「楽しい」「すがすがしい」「すばらしい」「うれしい」といった肯定的なイメージをもっている者が多く、自然体験活動を行わなかった群ほど、自然体験活動に対して「疲れる」「面倒くさい」といった否定的なイメージをもっている者が多い。

— 中学・高校生調査より

自然体験活動に対するイメージ	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
開放的な	40%	24%
楽しい	67%	35%
すがすがしい	36%	18%
すばらしい	37%	17%
うれしい	23%	6%
疲れる	39%	50%
面倒くさい	14%	35%

※上記は中学生の数値のみ

### 2 自然体験活動をたくさんした子どもは、課題解決能力や豊かな人間性など、「生きる力」のある子ども

自然体験活動をたくさん行った群ほど、「わからないことは、そのままにしないで調べることが多い」、「誰とでも協力してグループ活動ができる」、「相手の立場になって考えることができる」などの項目に「当てはまる」と答えた者が多く、自然体験活動を行わなかった群ほど「当てはまらない」と答えた者が多い。

— 小学生(4~6年)調査より

課題解決能力や豊かな人間性	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
わからないことは、そのままにしないで調べることが多い	70%	53%
誰とでも協力してグループ活動ができる	78%	64%
相手の立場になって考えることができる	73%	56%

また中学・高校生では、自然体験活動をたくさん行った群ほど、「勉強でわからないことがあったとき、そのままにしないで調べること」、「友だちの悩みや相談を聞いてあげること」などに、「よくある」または「時々ある」と回答した者が多い。

— 中学・高校生調査より

日常生活・行動	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
勉強でわからないことがあったとき、そのままにしないで調べること	61%	45%
友だちの悩みや相談を聞いてあげること	62%	52%

※上記は中学生の数値のみ

### 3 虫が気になるのは、自然体験活動の少ない子ども

自然体験活動を行わなかった群ほど、「ガ・クモ・アブなどの虫がいて怖いこと」「水洗トイレがないこと」「虫に刺されること」について「気になる」と回答した者が多い。

— 小学生(4~6年)・中学・高校生調査より

キャンプに行くとしたら気になること	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
ガ・クモ・アブなどの虫がいて怖いこと	45.44.37% (小・中・高)	54.61.59% (小・中・高)
水洗トイレがないこと	30.27.19%	36.40.34%
虫に刺されること	35.32.30%	40.44.40%

このデータは、全国の小中高校生約6万6千人という大規模な調査結果をまとめたもので、かなり信頼のおけるものです。どの調査項目を見てもたくさん行った子どもの方がプラスの評価となっており、自然体験の意義が明らかにされています。今後は、「なぜ自然体験は有効なのか」、「自然体験の何が良いのか」、というような踏み込んだ調査が期待されます。

データの中で私が気になったのは、たくさん自然体験を行っていても、そのイメージとして「楽しい」としている中学生が67%しかいないことです。「すばらしい」にいたってはたったの37%です。私にはこの数字がとても低く感じられました。「自然体験活動」という言葉が重い感じなのでしょうか、それとも「キャンプ」ならより楽しいイメージだったのででしょうか。どんな自然体験活動をしたのかがとても気になります。それは活動の「質」もとても大切だからです。また、自然体験の楽しさやすばらしさを引き出すために、「指導者」の存在も大きいものがあります。指導者付きの活動だけを対象にしていたら違った結果が得られたかもしれません。(多田聡)

### 4 自然体験活動をたくさんした子どもは、体力に自信

自然体験活動をたくさん行った群ほど、体力に自信があると答えた者が多く、逆に自然体験活動を行わなかった群ほど自信がないと答えた者が多い。

— 中学・高校生調査より

体力に	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
自信がある	20%	10%
自信がない	26%	35%

※上記は中学生の数値のみ

### 5 環境問題に関心があるのは、自然体験活動をたくさんした子ども

自然体験活動をたくさん行った群ほど、「地球の温暖化」、「オゾン層の破壊」「ゴミ問題」など気になる環境問題の数は多く、自然体験活動を行わなかった群ほど気になる環境問題の数は少ない。

— 中学・高校生調査より

気になる環境問題	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
8~9個	23%	12%
0~1個	11%	25%

※全9項目から気になる環境問題を選択した ※上記は中学生の数値のみ

### 6 自然体験活動をたくさんした子どもは、得意な教科の数が多い

自然体験活動をたくさん行った群ほど「理科」「図画工作」「体育」が得意であると回答した者が多く、得意な教科の数も多い。

— 小学生(4~6年)調査より

得意な教科	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
5教科以上	26%	10%
1教科以上	14%	29%

※全8教科から得意な教科を選択した

### 7 自然体験活動をたくさんした子どもは、ボランティア活動も豊富

自然体験活動をたくさん行った群ほど、ボランティア活動もたくさん行っている者が多く、自然体験活動を行わなかった群ほどボランティア活動もしていない。

— 小学生(4~6年)・中学・高校生調査より

ボランティア活動	自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
地域のお祭や行事に協力	70.64.63% (小・中・高)	36.32.25% (小・中・高)
地域の清掃活動に参加	59.40.28%	24.9.3%

# 青少年の自然体験活動等に関する実態調査

## ② 保護者調査編

### 8 自然体験活動をたくさんした子どもの親は自然体験活動に対して肯定的なイメージ

子どもが自然体験活動をたくさん行った群ほど、自然体験活動に対して「開放的な」、「楽しい」、「すがすがしい」、「躍動的な」、「うれしい」といった肯定的なイメージをもっている保護者が多く、自然体験活動を行わなかった群ほど、「難しい」、「面倒くさい」といった否定的なイメージをもっている保護者が多い。

自然体験活動に対するイメージ	子どもが自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
開放的な	65%	56%
楽しい	81%	65%
すがすがしい	38%	24%
すばらしい	45%	26%
躍動的な	27%	17%
うれしい	30%	13%
難しい	8%	14%
面倒くさい	8%	13%

### 9 自然体験活動をたくさんした子どもの親は、様々な活動に前向き

子どもが自然体験活動をたくさん行った群ほど、『あなたのご家庭では、学校が休みの日や夏休みの過ごし方について、お子さんとよく話をする』『あなたご自身は、子ども会やPTAの活動によく参加している』などに「とても当てはまる」と答えた保護者が多く、自然体験活動を行わなかった群ほど「当てはまらない」と答えた保護者が多い。

家庭・保護者の様子	子どもが自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
学校が休みの日や夏休みの過ごし方について、お子さんとよく話をする	28%	10%
子ども会やPTAの活動によく参加している	28%	19%

### 10 自然体験活動をたくさんした子どもの親は、自ら自然体験も豊富

子どもが自然体験活動をたくさん行った群ほど、自然体験をたくさん行ってきた保護者が多く、自然体験活動を行わなかった群ほど、自然体験を行ってこなかった保護者が多い。

保護者が自然活動を	子どもが自然体験活動を	
	たくさん行った群	行わなかった群
たくさん行ってきた	45%	15%
ほとんど行ってこなかった	6%	34%

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター実施の調査(2004.8)より引用

大人自身が「自然体験」に良いイメージを持っていればこそ、子どもにも「自分と同じ」良い経験をしてもらいたいと願う保護者が多いのは当然のことだと思います。

特に今回の調査では、それらの関係を明らかにしており、自然体験をした人ほど子育てに熱心な(理解のある)保護者であることを如実に示されています。

そう考えると、これからの子どもの育成は、親の自然体験の経験度が重要になってくるでしょう。長い目で見て、今後ライフデザインの観点から、質の高い自然体験を学校教育の中で経験してもらうことが施策として必要になってくるように思います。

学校での総合的な学習の時間や行事に見直しの声が集まってきているようですが、これらの学習が本当に子どもの心に根付いたのかがわかるのは、彼らが親の年代になってからではないかと思えます。(高瀬宏樹)

## ママと乳幼児のためのキャンプ ママチルキャンプ

こんな  
キャンプが  
あります。

保護者の自然体験が鍵を握ることが、データからも明らかになっていますが、乳幼児を抱えるお母さんに自然体験をしてもらうキャンプがあります。「mama&children's camp project (代表 鈴木 のぶ)」が行う「ママと乳幼児のためのキャンプ」は、子育てに悩むお母さんのリフレッシュと自分と子ども、夫など周囲の人との関係を見つめ直すことを目的にしたキャンプをしています。子育て支援の観点からも今後が注目されているキャンプです。



# キャンプに参加しよう、 家族でキャンプしよう。

キャンプにはいろんなやり方があります。家族で出かけるキャンプ、地域の子どもキャンプ、自然学校主催のキャンプなどなど。どのキャンプも良さがありますが、それぞれねらいや目的が異なります。家族だけで出かけるような「レジャーキャンプ」では、お父さんやお母さんのリフレッシュが目的かもしれません。あるいは、ふだん忙しいお父さんの挽回のチャンスかもしれません。いずれにしても、家族水入らずで、ゆっくりした時間を過ごすことができるでしょう。みんなでアウトドアをエンジョイしてください。家族の絆を感じる時になるでしょう。

また、子どもが家族と離れて参加するサマーキャンプや自然学校主催の「組織キャンプ」

は、レジャーキャンプにくらべると、より教育的なねらいを大切にしていると思います。子どもの成長に配慮したキャンプといえるかもしれません。親元を離れ、自分一人でキャンプに参加することは、自立心を育むことに役立ちます。はじめてキャンプに送り出すお母さんは、心配で仕方がないかもしれません。「かわいい子には旅をさせよ」というふうにいわれます。子どもにとっても親にとっても成長の時となると思います。教育（組織）キャンプは、そんな機会を提供してくれます。

アメリカでは、夏休み前になると、新聞などにサマーキャンプがたくさん紹介されます。子どもたちは、自分でキャンプを選びます。2週間～4週間の間、親と離れて豊かな体験を



して帰ってきます。ひと夏でいっきにたくましくなります。その一方で、夏休み以外の週末には、家族で近隣の公園やアウトドアのフィールドヘデイキャンプに出かけます。何かしなければいけないわけではなく、ただ単に家族で時間と自然を共有する体験をもつのです。アメリカの人々は、それぞれのキャンプの良さや楽しみ方を知っています。

キャンプには、家族で楽しむキャンプから、子どものサマーキャンプまで、色々あります。しかし、かたちにとらわれないで、まずは家族で自然の中へでかけることからはじめてみてはいかがでしょうか。それがわが家のキャンプになることでしょう。

(坂本昭裕)



「自然体験活動」って何ですか？  
キャンプと関係ありますか？  
生きる上で必要ですか？  
どんな役に立つのですか？

## Answer

自然体験は生きる上で必要だと思います。

いわゆる「自然体験」には普通二つの意味があって、一つは環境としての自然そのものを直接肌で触れたり感じたり見たりすること、もう一つは、自然の中で、何かを体験するこ

とです。最近よく使われる「自然体験活動」という言葉は、この両方の意味を含んでいます。キャンプは、自然体験活動の中の代表的な活動のひとつです。

今の子どもたちは、体験が不足していると言われていますが、たとえば、家の食卓や学校給食に出される食べものが、もとをたどるとすべて自然から来ているということが実感としてわかるような機会や体験もとても減っています。野菜が畑に生えている様子だとか、魚が海でおおいでいた時の様子など全然思い描くこともできずに、ただ食べているという

子も多いのではないのでしょうか。最近は大学生でさえも、サンマとサバとアジの区別ができないという人が増えているようです。

キャンプと言っても特に何か決まったことをやったり、特別な活動をしなければならないということはありません。たまには家族でじっくりあちこちの畑に何が生えているのか見たり、海辺の海産物店や市場で、どんな魚がそこでは獲れるのかじっくり眺めてみるのも楽しいキャンプの思い出になると思います。(星野敏男)

# キャンプ・インフォメーションセンターから

社団法人日本キャンプ協会では、キャンプのことなら何でも相談に応じる「キャンプインフォメーションセンター」を開設しています。2004年の相談実績から、キャンプの傾向を見てみましょう。



## 2004年4月から2004年12月の相談実績

件数 168件

### 相談内容のベスト5

- |  |     |
|--|-----|
| ① 子どもが参加できるキャンプの紹介                           | 46件 |
| ② キャンプ場紹介                                    | 23件 |
| ③ 指導者資格についての問い合わせ                            | 19件 |
| ④ プログラムの相談<br>(キャンプファイヤーのやり方、<br>雨の日の過ごし方など) | 15件 |
| ⑤ 指導者紹介依頼                                    | 12件 |

## 安心して子どもを預けられる団体のキャンプは、

- ① ねらいに応じたプログラムが企画されている
- ② 日程やスケジュールに無理がない
- ③ 安全対策がしっかり取られている → 子どもを危険から遠ざけるのではなく、「何が危険か」学べる
- ④ 子ども6人から8人に一人の指導者が配置されている(幼児対象の場合は4人～6人につき一人)
- ⑤ 専門の知識を持った指導者が指導している

などの条件をクリアしており、キャンプを選ぶうえで見極めが必要です。

## 子ども向けキャンプのトレンド

日本国内のキャンプから、2004年夏に行われたキャンプの傾向を見てみました。ムシキング(カードゲーム)がはやったことが影響したのか、「虫」がキーワードのキャンプが多いように思いました。「昆虫博士キャンプ-カブトムシ・クワガタムシをゲット-」(国際自然大学校:東京)、「自然体験冒険王国in山梨(ファール検定と銘打った虫に関するプログラムを実施)」(小学館レクリエーションリーダーズクラブ:東京)などプログラム内容を明確に打ち出し特化したキャンプは人気が高かったようです(参加する方も中身がわかりやすいのです)。

ここ数年、キャンプのニーズが低年齢化しています。特に幼児(4-6歳児)対象のキャンプは全体の開催数も少なく、定員に達するのが早い傾向にあります。「低年齢からの自然体験が有効」ということも明らかになってきている中で保護者の意識がそうさせているのかもしれない。

また、今年は10月に新潟県中越地震がありました。このことで、テントなどの物品提供や、指導者が現地でのボランティア活動に従事したなどの対応があったことも2004年の特徴でした。(キャンプインフォメーションセンターコーディネーター 高瀬宏樹、山田紗也子)

### 言葉の解説

#### 「キャンプ」という言葉の由来

実は「キャンプ」という言葉には、こんな由来があります。

CAMPはラテン語で、「平らな」を表す言葉だそうです。その昔、平らなところに砦のようなものを築き、そこに兵隊を置き、訓練を行いました。そしていつの間にか、「共に生活しながら、兵隊の訓練をするところ」をCAMPと呼ぶようになり、さらに転じて「仲間と共同生活をする」という意味になっていったそうです。大学の構内を「CAMPUS(キャンパス)」と呼ぶようになったのも、CAMPの跡地にローマ大学を建てたことが始まりだとも言われています。また、「CHAMPION(チャンピオン)」という言葉も、もともとはCAMP内の最も強い兵隊のことでした。

## ■ キャンプインフォメーションセンターへのお問い合わせは

Eメールで・・・

[info@camping.or.jp](mailto:info@camping.or.jp)

電話で・・・

03-3469-0233  
(月～金/10:00～18:00)

FAXで・・・

03-3469-0504

# 良いキャンプには良い指導者が必要です

日本キャンプ協会では、公認指導者の養成をしています。それは、質の高いキャンプ経験のためには、指導者が不可欠だからです。資格を持っている指導者は、全国に約2万人。全国の様々なアウトドアのシーンで指導者は活躍しています。



## あとがき

この冊子は、2004年のキャンプに関するデータを収録したものです。

「キャンプ」といってもその内容は広く、深く、さまざまなキャンプが全国で行われています。

この冊子が、キャンプのことをより知っていただくための一助になることを願っています。

### 都道府県別指導者数

ベスト5	
1. 東京都	<b>4,845</b> 名
2. 愛知県	<b>1,303</b> 名
3. 埼玉県	<b>1,279</b> 名
4. 大阪府	<b>1,024</b> 名
5. 神奈川県	<b>983</b> 名
	1県あたり平均 <b>427</b> 名

※ 各県協会に所属する指導者数を表しています

### 指導者の年齢構成

10代~20代	<b>71</b> %
30代	<b>11</b> %
40代	<b>7</b> %
50代	<b>7</b> %
60代	<b>3</b> %
70代以上	<b>1</b> %

### 資格別会員数

キャンプ・ディレクター1級	<b>1,213</b> 名
キャンプ・ディレクター2級	<b>2,800</b> 名
キャンプ・インストラクター	<b>14,292</b> 名
<b>合計</b>	<b>18,305</b> 名

※ キャンプ・ディレクター1・2級は文部科学大臣認定スポーツ指導者に関する知識技能審査事業に基づく指導者です。  
 ※ キャンプ・インストラクターは、20時間、ディレクター2級は80時間、ディレクター1級は160時間の研修を修了した指導者です。

### 登録指導者の男女比

女性	<b>47</b> %
男性	<b>53</b> %

Camp Data Book 2004

2005年3月31日発行

編集 社団法人日本キャンプ協会 調査研究委員会

平野吉直 大石示朗 井上忠夫 小泉紀雄 坂本昭裕 多田聡

岡村泰斗 月橋春美 星野敏男 高瀬宏樹

発行者 酒井哲雄

発行所 社団法人日本キャンプ協会

〒151-0052

東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立青少年センター内

TEL 03-3469-0217 FAX 03-3469-0504

E-mail:ncaj@camping.or.jp

http://www.camping.or.jp

印刷 大日本印刷株式会社

(2005年3月現在)



**NCAJ**

National Camping Association of Japan